

# ベトナム送出国関の現状 及び、手数料問題について

TSC JAPAN株式会社 代表取締役  
グローバル・ビジネス・アライアンス協同組合(略称:GBA) 専務理事  
松本 伸彦

# 松本伸彦 略歴

生年月日：1961年6月26日

メールアドレス：nob.matsumoto@gba.or.jp

## 職務経歴

1979年 東京佐川急便株式会社 営業部所属  
セールスドライバーを経て課長代理職

1991年 退職

1992年 武見運輸 株式会社 設立 代表取締役就任

1994年 株式会社 東翔 設立 代表取締役就任

1996年 グループ会社 有限会社ルートワン 設立  
グループ会社 有限会社大阪武見運輸 設立  
グループ会社 有限会社エムエスロジスティクス 設立  
グループ会社 有限会社スペースワーク 設立  
グループ総車両台数 100台にて全国展開

2004年 武見運輸、東翔 顧客とともに連鎖倒産  
全グループ企業を譲渡

2006年 ベトナムに新たな仕事を求めて初上陸

2008年 TOTAL BUSINESS SUPPORT Co,Ltd  
ベトナムホーチミンにて設立

2009年 TOTAL SUPPORT CONSULTING Co,Ltd  
ベトナムホーチミンにて設立

2010年 TSC JAPAN株式会社 設立

2015年 3S JOINT STOCK COMPANY(送り出し機関)  
ベトナムハノイにて設立

2017年 ベトナム政府より送出認可（認可まで1年半）

2020年 グローバル・ビジネス・アライアンス協同組合 設立

# 在日ベトナム人のためのCOVID-19対策 帰国支援プロジェクト



在日ベトナム大使館・一般社団法人在日ベトナム人仏教信者会と連携し、弊社TSC国際研修センターにて帰国困難者受け入れボランティアを実施中。

3月8日から現在まで、150名以上のベトナム人を帰国させる。

# コロナ禍における実習生の実情



PHAM THI LOANさん (25)

- 技能実習生として2017年来日
- 実習実施機関で日本人からのいじめに合いながら3年間我慢をして実習終了
- その後特定活動で延長しましたが
- 実習実施企業が倒産し、監理団体から派遣会社を紹介されるが、その派遣会社の寮は1LDKの5人部屋。先にいたベトナム人の先輩たちから台所や玄関で寝させられていて精神的に追い込まれる。
- 結果、失踪して公園で寝泊まりをしていた。

その他、

- コロナ禍で仕事量が減りその実習実施企業より見放された実習生
- 監理義務のある監理団体より見放され、途方に暮れて友人宅を転々としていた実習生
- 帰国便を企業や監理団体に相談せずに勝手に予約するも、帰国便が飛ばずに路頭に迷う実習生など、それぞれに様々な問題を抱えている。

# 手数料問題について

手数料問題の本質はどこにあるのでしょうか？

ベトナム人本人たちはどう考えているのでしょうか？

# 送出国 ベトナムという国

謝礼金文化

公務員や税務署員などの  
特権階級

- 英語教師になるために100万円の謝礼金。
- カラオケバーの日本人客が支払った謝礼金のおかげで客室乗務員に。
- 日系企業の総務部長のベトナム人女性が、取引業者からのバックマージンを懐に。

# 送出国 ベトナムという国

- ベトナムでは、人から紹介してもらうことには対価を支払う、謝礼金を支払うという文化・風習が確立している。
- 国営企業の社員や役人になるには、謝礼金が必要な国である。

社会主義国に存在する  
“当たり前背景”への理解が必要

# 送出機関の問題点

過当競争による  
高額賄賂

悪徳ブローカーや悪徳機関による  
高額手数料

- 2015年、ハノイに送出機関設立。資本金25万ドル、政府への預託金5万ドル。
- 元政府高官にライセンス取得を相談。早期認可の見返りに預託金30万ドルを要求される。
- 人脈を駆使して100万円を切る謝礼金でライセンス取得も、認可まで1年半と長期化。

# 送出機関の問題点

過当競争による  
高額賄賂

悪徳ブローカーや悪徳機関による  
高額手数料

- 「**楽で残業が多い**」という理由で、ベトナム人には工場などの屋内勤務が人気。
- 一方、SNSなどで建設業界は残業が少なく、暴力暴言が蔓延していて割に合わないという情報が拡散され、建設業界は不人気。
- 「**将来のために屋外で行う技術・技能を身につける仕事**」には魅力を感じていない。

# 送出機関の問題点

過当競争による  
高額賄賂

悪徳ブローカーや悪徳機関による  
高額手数料

- 建設業界に人材が欲しかった弊社は、仕方なくブローカーから人材紹介してもらう。
- しかし、一部のブローカーが契約を反故にしたり、実習生本人から高額な費用を徴収するなど、質が悪い。

# 送出機関の問題点

- 賄賂や謝礼金の額によって、ライセンス取得のハードルが変わる。
- 実習生が正しい情報を得る機会が少ない。(SNSでの誤った情報を鵜呑みにしたり、信頼する家族や知人が紹介するブローカーを信用したりする)  
そこにつけ込む悪徳ブローカーが横行している。
- 実習生側に、手数料が高額な送出機関のほうが安心を得られるという誤解がある。

**実習生への高負担・教育レベル低下が常態化**

**安い外国製のものを買うより、  
高くても故障しない日本製を買った方が安心だという心理**

# 日本側監理団体の問題点

キックバックの要求

接待費の  
肩代りを強要

-ベトナム側から日本側監理団体へ営業をかけると、必ず旅費(ホテル代も含む)や、接待内容、キックバックの話がでる。

# 日本側監理団体の問題点

- 鼻の下を伸ばしてへらへらしている態度を取引先に見せている監理団体に、果たして正当な判断が出来ているのか？
- 自分が優位に立っていると勘違いしている。
- 高額な手数料は日本側監理団体が求めていることで、必然的に金額が上がっていったのだと言っても過言ではない。

**監理団体が最も強い立場にいるという  
歪んだ構造**

# 日本側企業の問題点

**危機感が希薄**

**問題に対して  
無自覚・無関心**

- 入口を1歩間違えて、ひとたび悪質な監理団体に入ってしまうと悲劇が始まる。  
国内の行政からコンプライアンス上の問題で処罰を受けるリスクを伴う。
- 入国管理局が監査に入った場合、ラインが停止して元請けにも迷惑をかける。
- 組合員企業が自社ブランドを自らがおとしめているということに気が付いていない。

# 制度の問題点

**実習生の経歴偽造**

**国際貢献・国際協力という  
目的の崩壊**

- 制度の運用に適合させるために、送出機関が実習生の経歴を偽造している。
- 書類の偽造を知りながら、20年以上に渡り日本側は受け入れを継続している。

# 日本側企業にとって必要なこと

- ✓ **監理組合を構成する一組合員としての自覚**
- ✓ **連携する監理団体の見直し・選定**
- ✓ **国際社会で企業が果たすべき責任の再認識**
- ✓ **人材に対する適正かつ不正無き費用負担の再考**

# リクルーティングに関する 適正かつ不正なき費用負担

正規

3,600USD (手数料) + 590万VND (事前教育費)  
すべて本人負担

相場

6,500USD (手数料) + 1,000USD (ブローカー費用)  
すべて本人負担

新案

3,000USD (手数料) 企業負担  
800USD (事前教育費・食費・寮費) 本人負担

実習生への負担を最低限にし残る手数料を支払うことで、  
リクルーティングに関する適正かつ不正なき費用負担になる

# 今後どうしていくか

- ベトナム人にとっては、日本に来れば1年分の年収を2カ月強で稼ぎ出せる  
ジャパンドリーム。
- たくさんの収入をたくさんの方々が本国へ持って帰られている実情が、この  
実習生制度にはある。
- 外国人労働者を求める企業は、単なる雇用者としてではなく、監理団体を  
構成する1組合員としての自覚を持ち、この制度に臨むことが大切。
- 企業の本社命題として、どの監理団体と組むかを再考・熟考する必要あり。

**綺麗ごとばかりを話し合っても、  
この手数料問題は解決しません！**

**しっかりと目を開いて、日本側の暗い闇を  
切り裂いていかなければ、何も変わりません！**

**これからの日本の未来を、  
今参加している皆さんの力で変えていかなければ、  
今の日本の国力を維持することも出来ないでしょう！**

# 最後に

**手数料とは、顧客の満足度によるもの**

**この手数料問題は、  
ベトナム側の問題ではなく日本側の問題**

# メディアのご紹介

## TSC JAPAN株式会社



<https://tscjapan.co.jp/>

## TSC JAPAN株式会社 フェイスブックページ



<https://www.facebook.com/TSCJAPAN/>

## グローバル・ビジネス・ アライアンス協同組合



<https://gba.or.jp/>